

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

**事業所** グループホーム みつばちハウス

日付 平成19年3月16日  
 特定非営利活動法人  
**評価機関** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**外部評価の結果**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

『健やかに暮らし、楽しく集う。ここは第2の我が家』この理念を実現するために、各ユニットで計画と目標を立てている。今年度の重点事項として、1つのユニットは「ご利用者が自分の希望や願いが出しやすい雰囲気づくりを心掛けている。夕食後から21時頃までゆっくりと日変わりの飲み物とお菓子を食べながら、それぞれの思いが聴けるようなコミュニケーション作りをする。又、ケアプランを作る過程や面会時にご家族からご利用者の生活歴及び性格等をお聞きしていると、ご家族の思いがよく分かる。こんな日常生活をしながら「第2の我が家」を作り上げている。

もう1つのユニットも、同じく理念実現のために計画、目標をつくり、今年度は「これまでの人生で経験してきた事やご自分の身についた能力を知り、ご利用者とのコミュニケーションを大切にしている。特にご本人の性格やくせ、趣向などを知る事を大切とし、ケアプランを作成する。そして絶えず職員から利用者への「きっかけ」づくりを大切にしている。

2つのユニットを見ていると、利用者の性格や現在の状態によって雰囲気は異なるが、職員がいつも話し合っケアの手法をそれぞれの利用者に応じたものとし、ご利用者に対する接し方を共有化していることであろう。

このグループホームは、理念を実現する為の短期～長期計画、目標が運動しており、ケアプラン作成上のアセスメントとケアの実行、カンファレンスのケアマネージメントにも運動している。自己評価と外部評価がトータルとして相乗効果をもたらすにはあと一歩ではあるが、サービス提供の事業に全体として相乗効果を出しているという事は、グループホームの中でも数少ないマネージメントに優れたホームと云えよう。このようにお一人おひとりを大切にケアマネージメントを行い、利用者が充実し満足した生活が出来ると思えるグループホームに出会えて嬉しい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

眺めの良い広い屋上をもっと有効に日常使える方法を考えてもらいたい。屋上にアウトドア用のテーブル、椅子を常設したり、パラソルを設置して、パーティー風の昼食とかティータイムを両ユニットで楽しみ、附近の人とのコミュニケーションの場づくりにも活用すると素晴らしい第三の共通空間が実現すると思う。

**I 運営理念**

番号	項目	できてい	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 一人ひとり気ままに過ごしてもらいながら、生活の中に身体機能や精神活動へのリハビリを取り入れ、いつまでもいきいきと楽しく暮らしてもらえよう支援を目指している。 一人ひとりの個性を尊重し、その人の好む生活、無理のない自由な生活を支えていきながら、共同生活という人間関係の中に、温かみや生き甲斐を見出してもらうとしている。利用者全員で力を合わせて物を作ったり、一人ひとりの個性を大切に、その人のしたいこと、出来ることをそれぞれで楽しんだりしている姿が見られ、無理のない自由な時間が共同生活の中で活かされていると思う。 利用者にこのような充実した生活を送ってもらうために、職員はお互いの連携をとり、綿密な介護計画を立て、確実な実行をしていこうとしている。		

**生活空間づくり**

番号	項目	できてい	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 既存の建物をホームとしているので、ベランダや庭がないという不便な面はあるが、その中で利用者が出来るだけ自由に動け、和やかに過ごせるように広い空間を活かしてテーブルやソファを配置している。クッションフロアも温かみを出している。広い屋上は眺めもよく、運動や日光浴に良い。前の道路が危険で外出の機会が少なくなる分、よい季節には屋上をしっかりと活用してもらいたい。		

**ケアサービス**

番号	項目	できてい	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

**III ケアサービス(つづき)**

番号	項目	できてい	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 利用者の自由気ままな生活を見守る事を中心に、身体機能や精神活動の維持の為にそれぞれの人に合った方法でリハビリを取り入れ、それとなく身体的ケアを行って、楽しく活き活きとした生活ができるよう支援している。リビングルームでの利用者たちの穏やかな語りや趣味に取り組む風景はとてもほほえましく、家族にとってもこのホームの良さを実感できるものだと思う。入居時よりも状態が改善されている利用者も何人もいて、この状態が少しでも長く続いていこうと職員たちも願っている。 このような利用者の落ち着いた生活は、一人ひとりについてのアセスメント、介護計画、計画の実施を十分に検討して確実に実行している職員の努力からもたらされている事は確かであろう。日常の気付きをメモし、判りやすく詳しい記録に残す事を始めとして、日々の話し合いや会議で、アセスメント、モニタリングなどしっかり行い、適切な計画を検討し、さらにその計画を毎日確認しながら実行している。この堅実な取り組みを平然とした様子で行っている職員の裏には、大変な苦労があったらうと敬意に念を抱く。		

**IV 運営体制**

番号	項目	できてい	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か 職員間でよく話し合いを持ち、全職員が利用者一人ひとりに対して同じ考え方を持って接している。利用者にとってより良い暮らしは何か、より良いケアは何かを追及しながら、より良いケアプランの作成と実行に努力している。 家族へは「たより」と手紙で情報を提供し、家族も理解があり、面会も多い。地域との交流として、保育園児との交流などがあるが、地域へ出かけていくことや地域の人が自由に出入りできるような交流は、立地上から今後の課題だと思う。 協力的な家族も多いことから、家族会を作り、行基や外出時への協力をしてもらったりする仕組みを作るよう働きかけてもよいのではないだろうか。		